

チャペル週報

No.4

2019.5.6 ~ 5.10

春季宗教運動特集号

あなたを憎む者が飢えているならパンを与えよ。
渴いているなら水を飲ませよ。

(箴言 25章 21節)



ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

5月6日(月) 神 クリスマンとしての私⑤ 岩野 祐介(神学部教授)
経 舟木 讓(院長)
人 讃美歌を歌おう③ 嶺重 淑(宗教主事)
理 音楽チャペル クラシックギタークラブ
聖和 聖書物語「天国へつづくかいだん」

5月7日(火) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「答えを変えるために」 舟木 讓(院長)
神戸三田キャンパス 会場:Ⅵ号館101号教室
「創立130周年とKwansei Grand Challenge 2039」 村田 治(学長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「Mastery for ServiceとNoble Stubbornness:
畑 歆三のあゆみ」日浦 直美(副学長)

5月8日(水) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「関西学院で学ぶことの意味」 小菅 正伸(副学長)
神戸三田キャンパス 会場:Ⅵ号館101号教室
「〈いま、ここ〉に生きる」 細見 和志(総合政策学部教授)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「答えを変えるために」 舟木 讓(院長)

5月9日(木) 神 音楽チャペル バロックアンサンブル
文 Andreas Rusterholz(宗教主事)
社 「KG スピリット」とは④ 水野 隆一(神学部教授)
法 音楽チャペル 混声合唱団エゴラド
経 井上 智(宗教センター宗教主事)
商 宗教総部活動報告
国 Chapel in English Eun Ja Lee(宣教師)
綜 音楽チャペル グリークラブ
聖和 高田 正久(聖和短期大学教授)

5月10日(金) 院 井上 智(宗教センター宗教主事)
神 「震災を覚えて」⑥ 神学部メガホンプロジェクト
文 Chapel in English Andreas Rusterholz(宗教主事)
人 音楽チャペル グリークラブ
理 前川 裕(宗教主事)
西北 大宮 有博(法学部宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
5月10日(金) 人間福祉学部のために 大和 三重(人間福祉学部長)

“Mastery for Service”を体現する ～答えを変えるために～

舟 木 讓

関西学院に入学された皆さん、また新しい学年に進まれた皆さん、新しい年度が始まり一か月余りが過ぎましたが、いまどのような気持ちで毎日を過ごしているでしょうか。関西学院は今年130周年を迎えると共に上ヶ原キャンパス移転90周年、また8つ目のキャンパスが開設されるという節目の年を迎えています。上ヶ原キャンパスに移転した背景には、関西学院が高等教育機関として新たな発展を目指し、大学に昇格するという大きな目的がありました。当時、第四代院長であったC.J.L.ベーツ先生(後に初代学長に就任)は、上ヶ原キャンパスを表して“*We have no fence*”という言葉を残されました。ベーツ院長は本学のスクールモットーである“*Mastery for Service*”の提唱者でもあります。それを体現するためのヒントがこの“*We have no fence*”と言う言葉には秘められています。

この言葉は移転当時のキャンパスの形状が文字通り垣根や不要な壁が無かったことに起因しますが、それだけではなく、私たちが目指す究極の世界のあり方を端的に表わしています。現在、私たちの周りには、人種・国籍・宗教・貧富・教育格差等、多くの垣根や壁が存在し、不要な対立や憎悪が数多く存在しているのが現実です。また、そうした垣根や壁をさらに構築し、短期的な権力や利益の保持を目指す動きも目立ちます。そのような現実の中で、ともするとこの言葉は、実現不可能な理想のように思えるかもしれません。しかし、私たちが今生きている世界や社会は多くの先達の働き(特にその時々の中で様々な権利を侵害・はく奪されてきた人々)によって、それまで当たり前「我慢」しなければならなかった社会の現状が変えられて来たという事実が存在します。「当たり前」「常識」として私たちが共有してきた「答え」によって傷つけられ、当たり前の日常を送ることを阻害されてきた人々の働きかけと、そのことを誠実に受け止め協力してきた人々の尽力により「答え」が変えられて来た歴史に今改めて、謙虚に誠実に向き合う必要があります。

「答え」を良き方向に変え、不要な“*fence*”を取り除くため、この社会に存在する変えなければならない課題にしっかりと向き合い、変えるための力をこれからの学びと出会いの中で「耕し」、共に“*Mastery for Service*”を体現するための歩みを続けましょう。

(院長)

創立130周年の節目にあたり

村田 治

関西学院は1889年に創立され、今年で創立130周年を迎えます。実は、日本の高等教育や関西学院が大きな転機を迎えてきた年は、不思議と関西学院創立何十周年の年であることが多いという事実があります。

一番の例が、神戸の原田の森から上ヶ原の地に移転してきた年で、1929年の創立40周年の時でした。その意味では、今年は上ヶ原移転90周年に当たります。そして、この移転がその後の本学の大学設置へと繋がっていきました。2番目の例として、わが国の四年制大学の進学率が15%を超えて、著名な高等教育研究者であるマーチ・トロウの言う大学教育がエリート段階からマス段階へ移行したのが1969年で関西学院創立80周年の年に当たります。さらに、四年制大学の進学率が50%を超え、大学教育がマス段階からユニバーサル段階に入ったのが2009年で創立120周年の年に当たります。そして、今年2019年は創立130周年で、奇しくも、神戸三田キャンパス再編・活性化案が3月に大学評議会、理事会で承認された年になります。また、昨年に策定しましたKwansei Grand Challenge 2039が念頭においている2039年は、18歳人口の激減など日本の大学にとって大きな転換点となると予想されています。

まさに、関西学院創立40周年、80周年、120周年、130周年、150周年という大きな節目の年に、関西学院や日本の大学が大きな転換点を迎えています。特に、130周年を迎える今年から数年後について見てみると、まず挙げられるのが就職や労働市場の大きな変化と考えられます。すでに、昨年から話題になっていますように、新卒一括採用制度の見直しが始まっています。Kwansei Grand Challenge 2039でも指摘したように、AIの発達による労働市場の構造変化も叫ばれています。これに伴い、人間だけが持っている能力は何であるか、イノベーションやクリエイションを生み出す能力をどのように涵養すべきか、といった点が問われ、他方、データサイエンスや数学の能力の必要性が強調されています。おそらく、今から10年後の関西学院創立140周年頃には、世界は今とまったく異なっており、皆さんの働き方が大きく変わってくると考えられます。もちろん、関西学院ももう一歩進んだ変革を迫られることになると思います。

そのような時代に備えて、大学時代にしっかりと勉強する習慣をつけておいてください。知識を身に付けるのではなく、学び続ける力を身に付け、さらには、「生きるとは何か」「世界はどのようにあるべきか」といった根源的な問いかけを自分自身に対して行い、考え続けてほしいと思います。

(学長)

関西学院で学ぶことの意味

小 菅 正 伸

関西学院で学ぶことの意味は何であろうか。知識を得るためだけであるならば、何も関西学院で学ぶ必要はないであろう。私の専門分野である会計学について言えば、神戸大学や甲南大学でもほぼ同じような授業科目が開講されている。もちろん担当教員が異なれば、たとえ同じ内容の授業科目であったとしても授業のスタイル等は異なるであろうが、「知識の獲得」という点だけに着目すると、そう異なるものではない。

この問いを考えていた時に、J. S. Millによる次の言葉を思い出した。

「(前略)大学が道徳的あるいは宗教的影響を学生に及ぼすことができるとするならば、それは特定の教育によるのではなく、大学全体にみなぎっている気風によるのです。大学でどんな学科が教えられようとも、それは義務感が滲透した教育でなければなりません。大学は、すべての知識を人生を価値あるものにする主要な手段として与えねばなりません。すなわち、(大学は、すべての知識を)われわれ各人が人類のために実際に役立つ人間になることと、人類そのものの品性を高める、つまり人間性を高貴にすることという二重の目的を達成するために与えねばなりません。」(John Stuart Mill, Inaugural Address delivered to the University of St. Andrews, Feb. 1st 1867)

ミッションスクールである関西学院も、ミルの主張と同じ方向で大学教育の本質を捉え、「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定した。そこでは、スクールモットーであるMastery for Serviceを体現する世界市民を育成することを中心に、卒業後のWell-being、より良い社会に変革する情熱、誠実さと品位を重視する教育が提唱されている。

「私たちが理想とする学究の徒は、ただ知識を吸収するだけで、絞られるまで他に与えない、知識のいわばスポンジのようなものであってはなりません。知識を喜んで探求するとしても、ただ知識を得るためではなく、ましてみずからの名声のためでもなく、人類により良い奉仕を行うことを目指して知識を探求することが学究のあるべき姿です。」

上記の、C. J. L. BatesによるMastery for Serviceの説明文のなかに、われわれは関西学院で学ぶことの意味を、今一度確認する必要がある。

(副学長)

Mastery for Service と Noble Stubbornness:

畑 歡三のあゆみ

日浦 直美

関西学院との出会いによって、生きる意味を自らに問いながら人生を歩み、後半生を母校の教師として後進の育成に情熱を注いだ人がいる。その人の名は、畑歡三。彼は現在の関西学院大学体育会のモットー‘Noble Stubbornness’の提唱者でもある。畑は、自らstubbornnessを実践し、スクールモットーMastery for Serviceの精神に生きた。

畑歡三は、香川県丸亀市に生まれた。父は、歡三が幼い頃、人に殴られた怪我がもとで亡くなっている。武士の娘であった母は仇討を願っていたが、ある時、聖書に触れ、キリスト教徒となり、神戸女子伝道学校(旧聖和大学の前身)に入学。その後、愛媛、松山教会の伝道師となった。畑は松山中学に入学後、関西学院を知ることとなり、関西学院普通科へ転入した。松山では、立身出世、成功、歴史に名を残すというようなことを人生の目的のように教育されたが、関西学院では、おまえはいったい何のために世の中に生まれてきたのかと考えることを教えられたと畑は述べている。後に、彼はカリフォルニア大学大学院で美学とギリシャ哲学を修め、帰国後、関西学院高等部教授に就任し、同時に庭球部長、グリークラブ初代顧問となった。当時試合に勝てず意気消沈していた庭球部員のために、神によって建てられた関西学院のスポーツは、堂々たるフェアプレーに根差したものでなければならないと‘Noble Stubbornness’という言葉を贈ったと言われている。

畑が自らの問いへの答えを見出すきっかけとなった出来事は、1923年にサンフランシスコで開催された万国教育会議への出席だった。この国際会議は、第一次世界大戦後、平和の実現を目的に開催された。畑は、平和実現のためには、子どもの頃から、「顔色が違っていようが、言葉が違っていようが、皆互いに兄弟であると云う考えと感情を養っておかなければいけない。そしてこれは教育の仕事である」と述べている。彼の心に確信として根付いた「愛の精神」に基づく教育への情熱が彼を支えた。畑はその後、高等商業学部、専門部文学部、商経学部の講師、戦中、戦後の旧制中学部長、関西学院大学講師を務めた。最晩年に至っても彼は「Mastery for Serviceの精神を維持して、少しでも三日月の光を輝かす為に、Noble Stubbornnessの意気で働きたいと希っています」と記している。

(副学長)

〈いま、ここ〉に生きる

細見 和志

関西学院の心のよりどころは、『聖書』である。『聖書』には、時と場所を超えて、ひとがどう生きればいいのかを教えてくれる、命の言葉がある。

「マタイによる福音書」6章34節の言葉も、そんな言葉のひとつだ。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

いま、「マインドフルネス」が静かなブームである。それは、仏教の座禅がモデルになっている一種の瞑想法のことだ。やり方は様々だが、共通しているのは、呼吸を整えることによって、心身全体を深くつろぎの状態に置くことである。

なぜ、心身を〈いま、ここ〉に集中させる瞑想法がブームになるのか。それは、私たちが、〈いま、ここ〉に生きておらず、いつも〈よそ〉におり、それによって生きているリアリティが実感できなくなっているからである。

〈いま、ここ〉に生きるのは簡単なことのようにであるが、私たちにとって、これほど難しいことはない。特に、現代の社会に生きる私たちにとって、ほとんど不可能に近い。

スマートフォンは、今や私たちの生活必需品である。私たちは、電車の中はもちろん、歩いていても、友達と会っていても、自転車に乗っていても、スマートフォンの画面を見ている。その時、私たちの心はどこにいたか。〈いま、ここ〉ではない、どこか別のところ、〈よそ〉ではないだろうか。

また、私たちは、朝から晩まで、〈これからどうしよう(未来)〉、〈あのときあんなことをしなければよかった(過去)〉という、将来の計画、心配事、悔恨で頭がいっぱいである。未来と過去という〈よそ〉に心身を奪われ、ひとときも、〈いま、ここ〉に生きているリアリティを味わえず、くつろぐことができない。

もちろん、生きていく上で、将来のことを考えたり、過去のことを反省したりすることは必要である。しかし、同時に、いつでも〈いま、ここ〉に立ち戻り、いまの自分から目をそらす生き方を一度中断し、静かに心身を休ませることが必要ではないか。

そんな時、『聖書』は、遙か遠いところから静かに語りかけてくる。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

(総合政策学部教授)

●ランパスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランパス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。5月に入ると関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

- 5月6日(月) 関西学院聖歌隊
 - 5月15日(水) 関西学院グリークラブ
 - 5月23日(木) 関西学院バロックアンサンブル
 - 5月27日(月) 関西学院交響楽団 弦楽アンサンブル
 - 5月29日(水) 関西学院ゴスペルクワイア
 - 5月30日(木) 関西学院大学混声合唱団エゴラド
 - 6月3日(月) 関西学院交響楽団 管楽アンサンブル
 - 6月5日(水) 関西学院大学応援団総部 吹奏楽部
 - 6月6日(木) 関西学院ハンドベルクワイア
- いずれも12時50分～13時20分
ところ：ランパス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
主 催：宗教センター・宗教音楽委員会

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。【どなたでもご自由にご参加ください。】

(17:50～18:20 1405教室)

- 5月主題：「イエスに従う生き方とは」
- 5月9日(木) 山本 俊正 (宗教総主事)
 - 5月16日(木) 井上 智 (宗教センター宗教主事)
 - 5月23日(木) 嶺重 淑 (大学宗教主事)
 - 5月30日(木) 山本 俊正 (宗教総主事)

●関西学院大学文化総部書道部「聖句展」

- と き：5月13日(月)～17日(金)
9:00(初日は10:30から)～17:00(最終日は15:00まで)
ところ：吉岡記念館1階ラウンジ
主 催：宗教センター

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝のご案内

授業期間中の第二・第四日曜日(原則)に、教職員と学生有志による礼拝が行われます。どなたでも(クリスチャンでなくても)参加できますのでどうぞお越しください。

- 5月12日、26日 10:00～11:00
関西学院会館ベーツチャペル

◆CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。